

Japanese  
Fellowship  
55-0501A

フェローシップ  
シカゴ イリノイ州 アメリカ合衆国  
1955年05月01日午前



[www.messagehub.info](http://www.messagehub.info)

ウィリアム・マリオン・ブラハム  
"...第七の御使が吹き鳴らすラッパの音がする時には、神がその  
僕、預言者たちにお告げになったとおり、神の奥義は成就され  
る。" 黙示録 10:7

## はじめに

際立ったウィリアムブラナムのミニストリーは、マラキ4章4,5,6及びルカ書17:30と黙示録10:7と多くの聖書の預言に対する聖霊からの答えなのです。この世界規模のミニストリーはこの終わりの時に聖霊による神の御業の継続なのです。それは聖句の中にあり、イエスキリストの再臨のためにある人々を整えるために立ち上げるために必要とされていると書かれています。

あなたが祈り深くこのメッセージを読むとき、この印刷された御言葉があなたの心に刻まれるようにと祈ります。

メッセージの正しい転写、翻訳を提供できるように最善を尽くしておりますが、英語の録音がウィリアムブラナムによって語られた説教をもっともよく表しているものです。

オーディオや転写された1100の説教がウィリアムブラナムによって語られたものが無料でダウンロード可能で又多くの言語で印刷可能になっています。(日本語での翻訳あり)

変更が行わないかぎり、メッセージを無料でコピー、配布することは許可されています。

# フェローシップ

1 おかけください。こんばんは、皆さん。

本日この午後、シカゴにて、神の愛する子たちのこの素晴らしい集まりでお話しできることを、本当に嬉しく思っております。こうして再び説教台の後ろに立てるというのは、何とも言えず良いものです。しばらくの間、私はここに立っておりませんでした。

さきほどまで控室で少し待っておりましたが、そのときに皆さんが「Only Believe(ただ信ぜよ)」を歌い始められました。ビリーが私の方を見ました。その瞬間、私の心の内側に、一滴の涙がポトリと落ちたように感じたのです。皆さんにはお分かりいただけるでしょうか…「内側」に、です。

あの歌を再び聞くことができ、本当に心が震えました。「ただ信ぜよ」。そして私は思いました——「ああ、これでもう一度、私はこのプラットフォームに立つのだ」と。

今朝、私たちは車でこちらに向かってまいりました。ほんの少し前に到着し、すぐにこちらに伺いました。

今日ここに来た理由の一つは、もちろん、あなたがた親愛なる皆さんにお会いすることです。私はいつもシカゴに来るのが大好きです。まるで我が家に帰ってきたように感じるのです。これは、今ここで言わねばならないから言っているわけではありません。事実なのです。

そしてもう一つは、私の愛するボーズ兄弟と共に過ごすことができるからです。

2 それで、私は聞いたんです……。彼——ジョセフ兄弟——が数日前に私に電話をくれましてね、こう言ったんです。

「日曜日、来てもらえませんか？」

私はこう答えました。

「それはちよつと無理なんです、ジョセフ兄弟。今、うちの妻がいつ赤ちゃんを産んでもおかしくない状態なんです。それで、どうしても行けないと思います」と。

すると彼はこう言いました。

「実は私、出かけるんです。海外に行くんですよ」と。そしてこう続けたんです。

……私は言いました。「行きます」——[会衆、笑い]——

私たちがよく言うところの、「さようなら」——いや、「行ってらっしゃい」ですね。

でも私たち伝道者の間では、「さようなら」とは言いません。なぜなら、私たちは永遠に共に生きる者たちですから。「また会いましょう(So long)」と言うだけです。彼が旅立つまでの間、神の祝福をお祈りし、ここにいる教会の皆さんの前で、それを言うことができるように——。

3 それから私は思ったんです——もしかしたら、彼と教会の皆さんの前で、何かひと言お伝えできる機会があるかもしれないと。

私は普段、癒しの礼拝などでは、自分の気持ちを、心から望むような形で、皆さんにお伝えすることがなかなかできません。でも今日は、この教会に向けて、自分なりに——たとえそれが不完全でも——心からの感謝を伝えたいのです。

それは、あなたがたの牧師であるボーズ兄弟に対しての、深い感謝の気持ちです。

私は、妻に言うような調子で、こう言うんですよ。

「小さなスウェーデン人がいてね、私は本当に彼を愛してるんだ」と——[会衆、笑い]。

彼は私のことを「ブラナム兄弟」と呼び、私は彼のことを「ジョセフ」と呼びます。ええ、それで私たちがどれほど親しい友人か、お分かりいただけます。

そして、私たちにもうすぐ生まれる男の子——その子の名前も「ジョセフ」にする予定なんです。[ブラナム兄弟、笑い]。そうなんですよ。

だからこそ、私たちはブラザー・ヨセフのことを本当に感謝しています。ただ、彼がここに座っているからそう言っているのではありません。もし彼がここにいなくても、私の心は同じです。

ときに私は間違ふこともある。

でも、あなたがたは離れなかった。支えてくれた。

76 さて今、神が皆さん一人ひとりに必要なものをすべて与えてくださいますように、また、心の中のすべての願いが叶えられますように、心からお祈りします。

さて今夜、「癒されたい」と願っている方は

どのくらいいらっしゃいますか？

——この会堂におられる皆さん、どうぞ手を挙げてください。

神様があなたを祝福してくださいますように！

ああ、本当に…神の恵みが皆さんと共にありますように。

もし一度ご自宅に戻る必要がある方は、少し休んで、また戻ってきてくださいね。

あと少ししたらお祈りカードを配りますので、それを受け取って、今晚ぜひ前に出て祈ってもらってください。

私は、今夜はきっと素晴らしい集会になると信じています。

皆さんもそう思いませんか？——アーメン！アーメン！

神様の祝福が、皆さん一人ひとりに豊かにありますように。

ではこれからこの集会をジョセフ兄弟にお渡しします。

また2時間ほど後にお会いしましょう。

この壇上に上がるとき、実は**契約の箱(アーク)**について語る**ことが、心にありました。**

**でも、ここに立った瞬間、ふと「交わり(フェローシップ)」**

について語るのがよいのでは、と感じたのです。

75 私は、あることをしてしまいました——

聖霊が「してはいけない」とおっしゃったのに、私はそれに逆らって、自分の意志で押し通そうとしてしまいました。

でも、それでもなんとか進み続けようとしたのです。

皆さん、ちょっとだけ聞いてください。

先ほど、ジョセフ兄弟のことを少し話しましたね。

私が正しい時も、間違っている時も、皆さんはそれをご覧になってきました。

皆さん自身もそうですよね——正しい時もあれば、間違っている時もある。

けれど今日の午後——

この長い時間の間に、この会堂から出て行った人は一人もいませんでした。

癒しの集会がこのあとにあると知っていて、

「そろそろ帰って夕食を取らなきゃ」と思っていた方もいるでしょう。

でも、それでも皆さんはずっとここに座っていてくれました。

なんて素晴らしいことでしょう！

心から感謝します。私はあなたがたを、神の御前において誇りに思います。

そして、私が自分の中で戦っているのを、あなたがたは見ても、それでも私のそばにいてくれました。

これこそが、私が伝えたいことなんです。

私は本当に、多くの素晴らしく、忠実な友を持っていることを、心から光栄に思っております。

4 ほんの少し前にここへ向かって来る途中、サウスショア・ドライブって言うんでしょうか——あの道を通ってきたんですけど、ビリーと私とで話をしていました。

ビリーが言いました。

「お父さん、今夜また戻るの？」

私は答えました。

「いや、ビリー、今日はちょっと疲れすぎるな。おそらく今日だけで二回は説教するだろうし、それじゃあ体が持たないよ」と。

すると彼が言ったんです。

「お父さん、知ってる？ 僕、ボーズ兄弟は、今まで会った中でも一番素晴らしい人の一人だと思うんだ」

だから、私は息子の言葉を借りて——そのまま「私も同感だ」と言わせてもらいます。

ええ、その通りです。

5 私はジョセフ兄弟を愛するようになりました。

彼の好きなところは……たくさんありますが、いくつか挙げましょう。

まず第一に——彼がクリスチャンの兄弟であるということ。

第二に——彼が言ったことには、ちゃんと責任を持つ人だということ。私はそういう人が好きです。何かを言ったなら、それを貫く。そういう男性は尊敬に値します。

それからもう一つ、これはとても大きなことですが——彼は私が正しかろうと間違っていようと、友でいてくれる人です。

誰だって、自分が正しい時に友でいてくれる人はいます。でも、自分が間違っている時にも変わらずそばにいてくれる、それが本当の友です。

私がいつも正しいわけじゃありません。実のところ、大半の時間は私のほうが間違っているのかもしれない。

でも、私が正しかろうと間違っていようと、ジョセフポーズは私の友なのです。

私は彼が困難な試練の中にいるのを見てきました——誰にも知られず、公の場には現れないような、私たちが信仰の試練に直面していた時も、彼は変わらず、兄弟のように私のそばにいてくれました。

私はそのことを、心から感謝しています。

人々は私にこう言って、落胆させようとするんです。

「ポーズ兄弟は“ラターデイ・セインツ”だ」——あるいは……なんでしたっけ?——「ラターデイ・レイン」? [会衆、笑い]

でも私はこう言います。

「彼がファースト(最初)だろうと、セカンド(第二)だろうと、ラター(後期)だろうと、その間のすべてであろうと——私は気にしません」[会衆、笑い]

彼は、私の兄弟なのです。

6 私たちが共にあるということ——

かつてシカゴ、イリノイ州で、あるテント集会在中止になったことがありました。なぜなら……私はそのときまでヨセフ兄弟のことを実際に見たこともありませんでしたが……その集会で、彼を招待しないという理由で、私はそのテント集会をキャンセルしたのです。

皆さんはそのことをご存じなかったかもしれませんが、事実です。

私はちょうど、スウェーデンのストックホルムから戻ってきたばかりでした。そして私と一緒にいたグループにこう尋ねました。

「これは、すべての教会が完全に協力している集会なのですか？」

「はい、そうです」と。

私はこう尋ねました。

必要とするすべての者が、身体においても完全にされますように。

私たちは、主イエスの御名によってこれをお祈りいたします。

アーメン。

74 ここ数日、いろいろあってね。

家に帰っては、たくさん問題やら何やら……ご存じでしょう、

家のことでいろいろあるものです。

一昨日の夜に家を出て、夜明けまで出ていて、昨日は一日中外でした。

昨晚も、ほんの少ししか眠れなくて……。

今朝も早くから起きて、こうしてここに来ています。

ちょっと厳しい日々でした。

そして、私が長く引き留めてしまって……

みなさん、こんなに長い時間、ほんとうに申し訳ありません。

でも、もしも聖霊が働いてくださったのなら……

私は——ああ、これを言うべきじゃないかもしれませんが……

でもこう思うんです。

「あなたがいなくなってから花輪を贈るよりも、生きている今、ほんの小さなバラのつぼみを差し出したい」と。

わかりますか？

私はこれまで、世界中の良い聴衆と出会ってきました。

けれど、このシカゴのこの小さな教会で出会った皆さん以上に、

心から耳を傾けてくださる方々に出会ったことはありません。

今日の午後、私は別のことを語ろうとしていました。

今この時に、すべての心を清めてください。  
 習慣となってしまったことも、  
 心を圧迫する罪も、  
 これらの愛しい人々の内にある、あらゆる悪しきものを——  
 神よ、今この時に、取り除いてください。  
 どうかお与えください。  
 彼らが、  
 へりくだり、やさしいキリスト者となりますように。  
 不義を憎み、義を愛する者となりますように。  
 ——主よ、どうかお与えください。  
 ああ、祝福された救い主よ。  
 そして今、父なる神よ、  
 この場におられるすべての人が、  
 大きな信仰を受け取ることができますように。  
 主よ、私たちは今晚の癒しの集会を心待ちにしています。  
 もう一度——主よ、どうかもう一度だけ、  
 それが起こりますように。  
 今夜の集会は、私たちの兄弟が海外へ旅立つ前夜です。  
 どうか彼が、神の国の幻を新たに胸に抱いて出発できますように。  
 今夜の集会が、素晴らしい時となりますように。  
 今夜、その扉をくぐるすべての病める者たちが、完全に癒されますように。  
 ——主よ、どうかそれをお与えください。

「あの人——スウェーデンの教会でよく話題に出てくる、なんていう教会だったか——そう、ペトルス兄弟。彼は協力しているのですか？」

すると、私に話していたその人がこう言いました。

「いえ、ブラナム兄弟。実は彼は、“ラターデイ・レイン”なんです。だから……あなたの集会にとってはマイナスになります」と。

私は即座にこう言いました。

「もし彼がそこにいられないのなら、私も行きません。それだけです」と。

そしてこう続けました。

「私たちが“超教派”を掲げているのなら、それは“すべての人”を意味するのです。誰であっても構いません。メソジストでも、バプテストでも、エホバの証人であっても——みんな同じように歓迎されるべきです。私たちは“この人はダメ、この人はいい”と、くじ引きのように選別することはできません。私たちはみな兄弟なのです。そして、これからもそうありたいと願っています」

ですから、彼らがどの教会に属していようとも——

御霊によって新しく生まれたなら、私たちは皆、キリストにある兄弟です。

そして私は、ジョセフ兄弟のことを、心から感謝しています。

7 そして私は、こう思ったんです——

いや、実際にそう言われたわけではありませんし、何かあらかじめ考えていたわけでもありません。ただ、ふと思ったのです。

あの時、ジョセフ兄弟が私に話してくれていたときのことを思い返ししながら——彼が旅立つ前に、きっと教会の皆さんは、彼のために愛の献金を集めてくださるのではないかと。

彼は私と同じように、人々の施しによって生かされている貧しい働き人です。ですから、出発前にそのような思いがあるのではないかと、想像したのです。

私はさっき、ほんの数分前に彼に尋ねました。

「ジョセフ兄弟、ご自身のために愛の献金を取られる予定ですか？」

すると彼は、

「おそらくそうなるでしょう、ブラナム兄弟。今夜、きっと…」と答えました。

それで私は言いました。

「本当は、私があなたのためにそれを取り仕切ることができたらと思います、兄弟。でも……」と、続けました。

「もし私がそれをやったら、あなたの献金はゼロになってしまうかもしれませんよ」と。[笑い]

でも私は、こうも言いました。

「ただ……私は本当にね……。あなた方は、私がこのプラットフォームで、そういうこと——献金のことなど——を話すのを聞いたことがないと思います。なぜなら、私は生涯、一度も自分のために献金を取ったことがないからです」

8 でもね、兄弟——私にできることなら何でも、私はジョセフ兄弟のためにしたいと思います。

なぜかと言いますと——それには理由があるのです。

私が本当に苦しい立場にあったとき——皆さんはそのことをご存じないと思いますが——彼は助けてくれたのです。

かつて私は、海外に出かける準備をしていて、すでにすべてを整えていたのですが、あと2,000ドルが足りなかったのです。航空券を買うのに、それだけ不足していました。そう、航空券を買うのに十分な額がなかった。

けれども、神が信仰によって私を呼ばれた——私は行くつもりでした。

そのとき、ジョセフ兄弟が——私は何も彼に話していませんでしたが——霊的な導きによって、インスピレーションを受けて、前に出てきて、会衆の皆さんと共に、その必要を満たすために動いてくれたのです。

「海外に行かれるんですか？費用が必要なんですか？」——そんなふうに尋ねたわけでもなく、ただ導かれるままに、シカゴの人々とともにその献金を集めてくださったのです。

彼は信仰によって、それを行いました。

他にも……ご婦人、紳士、また別の方も。

神様があなたを祝福してくださいますように。

——それこそが、誠実であるということです。

——それが、本当の男と女の姿です。

私たちは今、神の御前に立っているのです。

ご婦人、神様があなたを祝福してくださいますように。

あなたの人生から、それらのものを取り除いてほしいのですね。

そう、神様はそれをしてくださいます。

必要なのは——ただ、今この瞬間、神にそれを委ねることだけです。

祈る前に、ほかにおられますか？

73 私たちが頭を垂れている間に——

親愛なる神様、

ああ、父なる神よ、この人間の魂たち……

私たちは知っています、この会堂におられるのは、

あの日に私たちを裁かれる方であることを。

地に一羽の雀が落ちるのさえ、父の御心なしには起こらないのです。

それならば、今、真心から手を挙げたこれらの人々を、

あなたがどれほど深くご存じであるかは言うまでもありません。

彼らは、昼も遅くなったこの時間まで、

ずっとみことばに耳を傾けてきました。

どうか主よ、

主イエスの血潮によって、

あなたが自分の中に「間違っている」と知っていることがあるなら、どうか手を挙げてください。

こう言うのです：

「ブラナム兄弟、今、私のために祈ってください。

神様が私を血の下に導いてくださって、

昔ながらの悔い改めの経験を与え、

私の心が神の前に清くされるように。」

もし今、この場にそう願う方がいるなら、

祈る前に、どうかその手を挙げてください。

——私のためではありません。神のために手を挙げてください。

「神よ、憐れんでください。私は今、あなたの前に本当に清い心を持ちたいのです。」

バルコニーにいらっしゃる方の中におられますか？

——神様があなたを祝福して下さいますように。

あなたも、あなたも。

ご婦人、神様があなたを祝福して下さいますように。

あなたも、兄弟よ、姉妹よ、神様が祝福して下さいますように。

——そう、それでいいのです。

神の前で正直でありましょう。

今、これは私に手を挙げているのではありません。神に対してです。

神様があなたを祝福して下さいますように、ご婦人。

後ろのほうにおられるのが見えます。

そして私は、翌日そのお金で航空券を買い、旅立ったのです。

9 今夜、彼(ジョセフ兄弟)が旅立つすべての働きにおいて——

どうか良き主が豊かに祝福して下さり、彼を遣わして下さいますように。

ジョセフ兄弟——あなたがこれから向かわれる国、その地方には今まで行ったことがありませんでしたね？

[ポーズ兄弟「いいえ」]

……ええ、彼自身、そこでどんなことに直面するか、まだきつとよく分かっていないんですよ(笑)。

私には分かるんです。アフリカに入るというのは、なかなか大変なことなんです。

ですから私は祈ります——神が私の兄弟と共にいて下さり、あらゆることにおいて彼を祝福して下さいますように。そして、あちらで多くの魂がキリストへと導かれますように。

願わくは、良き主が最も恵まれた集会を彼に与えて下さり、彼の人生でかつてなかったほどの祝福と実りのある働きがなされますように。

そしてシカゴに帰ってくるときには、新たな息吹に満ちて、皆さんに大リバイバルの報告をして下さるような、そんな状態で帰ってこられますように。

今回のこの旅立ちで、彼は正式に“宣教師”となるのです。

……この言葉、他の教会の方々には、少し変に聞こえるかもしれませんが。

10 聞いてください。

「宣教師」というのは、自分の国を変えて別の場所に住む人のことではありません。

宣教師というのは、「行って、そして戻ってくる人」のことです。

パウロは、世界がこれまでに知った中で最も偉大な宣教師でした。——そうでしょう？

ただ人を訓練して、外国へ送り出し、そのまま現地に住んで生涯を終える——それでは単に「国を変えた」だけのことです。それは宣教師とは言いません。

本当の宣教師というのは、ある場所から別の場所へ、そしてまた別の場所へと遣わされる者です。

パウロは旅を一巡し、また戻ってきて、再び出て行きました。そしてまた戻ってきて……これを繰り返しました。だからこそ、パウロは「宣教師」だったのです。

ジョセフ兄弟——神があなたを無事に「宣教師」として戻してくださいますように。

そして、また再びあなたを遣わしてくださいますように。

主の祝福が豊かにありますように。

11 そして、ここシカゴに集まってくださった親愛なる皆さん——

ちょっとお聞きしたいのですが、今日この中に病んでおられる方はいらっしゃいますか？

もしおられたら、手を挙げていただけますか？……どなたか……。

それでは、今夜、お祈りの集会を持つことにしましょうか。病のために祈る時です。

今夜、癒しのお祈りをご希望の方、手を挙げてくださいますか？——祈りの集会を望んでおられる方は？

……ああ、よろしい。結構です。

では、今夜は病の癒しのためにお祈りしましょう。

今晚のために、祈りのカードを用意しておきます。だいたい6時半ごろに配れるようにしますので、その時間にカードを受け取りに来てください。

……[誰かが「6時」と言う]……6時？

……[「集会は7時です」と別の人]……ええ、では6時ということで大丈夫ですね。今晚6時にお越しください。それで結構です。

日。そしてその時代もはるかに費やされています。それは私たちが思っているよりも遅いです。主の到来が近づいています。男性の心、あなたはこの偉大な文明が崩壊し、今沈んでいるのを見ます。このアメリカを見てください。なんて恥ずべきことでしょう。

イエスが言われたことを見てください、それがノアのように最後の日に、彼らは結婚や物事を与えるでしょう。離婚裁判所を見てください、そしてアメリカはすべての国を合わせたよりも大きいです。不道徳を見てください。西海岸での倒錯、性的倒錯、そしてその周辺を見てください。毎年数千倍の数千が成長しています。汚い、汚い、不敬虔な、体の自然な使用を取り、何かに変質している…変質した心を持つ人々。男性は外に出て、彼らがする方法を続けます。これらの小さな古い服を着ている女性。彼らは自分たちが間違っているとは思っていません。確かに、彼らの心は変質しています。悪魔はそれらを手に入れました。彼らはそれを知りません。私、なんて日だ！

71 あなたは、「血の下」にいますか、信じる者よ？

もしそうでないのなら……

今この瞬間、主イエス様と私だけがあなたの心を見つめています……。

もしこの場に、心の中で正直に「自分は間違っている」と感じ、

御言葉の説教によって「その通りだ、自分は正しくない」と信じるようになった人がいるならば、

——その心の中に何かが、「あなたは正しくない」と告げているならば、それが御霊の働きです。

たとえ実際には行動に移していなくても、

そのようなことを「願ってしまう心」があなたの中にあるなら、

それ自体が問題なのです。

聖書はこう言います：

「女を見て情をいだく者は、すでに心の中で姦淫を犯したのである。」

72 兄弟に銃を向けて撃つ者——または、「正当な理由もなく怒る者」……

そしてことばは肉となって、私たちの間に住まわれた。」

——ああ、主よ、私たちはあなたを愛し、

今ここに臨んでおられるあなたのご臨在に心から感謝します。

偉大なる神の御子、よみがえられたお方、

その御言葉は決して失われることのないお方。

聖書にはこうあります、

「二人または三人が私の名によって集まるところには、私もその中にいる。」

まさに今、ここにあなたがいてくださいます。

神様、どうかまだ新しく生まれていないすべての未信者が——

血潮をくぐって来ることなく、ただ教会に通っていただけの人々、

怒りを手放せず、世の習慣にしがみついているような人々、

知的な信仰はあっても、真に洗われ清められたことがない人々が——

この場において、小羊の血によって心を洗われ、清められ、

完全な交わりの中に入ることができますように。

神様、どうか今日の午後、

ここで心からの悔い改めと交わりが起こり、

今夜の癒しの礼拝が、この会衆にとってかつてないほどの癒しの場

となりますように。

主よ、神の栄光のために、これをお与えください。

私たちは主の御名によって願います。

70 そして、頭を下げて、みんなが祈って、あなたがそうするかどうか疑問に思っています....遅くなっていることは知っていますが、友よ、2つの方法で遅くなっています。その日ははるかに費やされています。この日の日曜日の午後、5月の初

さて、まず最初に——もしビリー・ポールが私の声を聞いていたら、車の中を見てくれないか？祈りのカードが残っているかどうか。もしなかったら……何か使える紙はあるか？——

[誰かが答える]——

ああ、それで大丈夫。よろしい。

では今晚、私たちは病の癒しのために祈ります。

12 さて、この午後も時間がだいぶ経ってしまいましたね。でも……私たちはいつもそうなんです——始めるのにちょっと時間がかかって、終わるのにもまた時間がかかるんです。ええ、それが私たちです。

でも、こうしてまた皆さんにお会いし、お話できることが本当に嬉しいのです。

どうかお願いがあります。

私の最愛の妻のために、お祈りしていただけますか？

これから生まれてくる小さな子のためにも——。

可哀そうに、彼女は本当に大変な時を過ごしています。

けれども私たちは、目には見えないお方——救いを与えてくださる主を見上げて、信頼しているのです。

13 それでは、聖書——ヨハネの書から——ほんの少しだけ読んで、お話をさせていただけたいと思います。ほんの短い時間ですが……

[ここで、ある兄弟がブラナム兄弟に何か話しかける]

ああ、はい。ありがとうございます、兄弟。

では、主が許してくだされば、これから30分ほどで終えたいと思います。

今日、皆さんにお話ししたいことがあります……

ではまず、御言葉から読んでまいりましょう。

——ヨハネによる福音書……ではなく、ヨハネの第一の手紙、第1章からです。

14 さて……ああ、見えましたね。あそこには、私の友人であるレオとジーン。こちらの地域出身の若者たちで、録音の奉仕をしてくれているんです。

そうそう——ちょうど今、思い出しましたが——

この二人の兄弟は、私の集会にいつもついてきて、録音をしてくれています。そして、すべての説教をテープに収めてくれているんですよ。

つい最近、ある方の説教を聞きたくて、テープを取り寄せようとしたんです。ところがまあ……あのテープを手に入れるには、まるで国ごと買い取らなきゃならないくらいの勢いで(笑)、なんと1本で9ドルもしました。私は思わず「うわあ、なんてこった……」と。

それで私はこの二人に聞いたんです。「あれはいったいどうなってるんだい？」ってね。

すると……いやはや、彼らが扱っているものとはまったく違いました。

この二人は、すべてのメッセージを録音してくれていて、それも——いわゆる“ササfrasとコーンブレッドで育ったような”素朴なスタイルだけど、皆さんにもきっと役に立つと思います。

いや、本当に心から、あなたの助けになりますよ。

私はこれまで、この“昔ながらの信仰”に守られてここまで来ました。そして、いざという時には、命さえ賭けて、この信仰にすべてを委ねてきました。

きらびやかに磨き上げられてはいないかもしれない。でも、私は神の祝福が共にあることを求めます。どんなに外見が整っていようと、祝福のあるところに私は立ちたいのです。

そして、神がこの二人の兄弟——その使命のために命を捧げて働いているこの兄弟たちを、豊かに祝福してくださいように。

15 それでは、今から聖書をお読みします。

第1ヨハネの手紙、第1章の5節から7節までです。

「これが、私たちがキリストから聞き、あなたがたに告げ知らせるメッセージです。

私はさらにそれに疑問を持ちましたが、彼(御使い)はそれをキリストに結び付けて説明してくれました。

「わたしはあなたと共にいる。」と。

だから私は、癒しを必要とする人々や、

病の方々のところへ歩み出て行くとき、

それは私にとって確信そのもの(ポジティブな事実)となるのです。

私は信じています。

68 今ここで、私の目の前のすべての病人が癒されると信じる信仰があればいいのに——

ちょうど主が今、ここにおられると信じて疑わないように。

そんな信仰を持てたらと思います。

皆さん一人ひとりにも、そのような信仰を持っていただけたらと願います。

私たちの思いや交わりが、

目に見える領域のものから離れて、目に見えない領域に向けられるならば、

それは、目に見える現実と同じくらい確かなものとなる——

いや、むしろそれ以上に確かなものとなるのです。

主があなたを祝福してくださいように。

さあ、しばらくの間、頭を垂れて祈りましょう。

69 天の父なる神様、

キリストの御身体のまわりに集い、

御言葉を囲んで持つこの交わりのひとときのために感謝します。

「初めにことばがあった。ことばは神と共にあり、ことばは神であった。

霊の世界と完全に繋がるほどに充電されると——

神の御言葉の一つ一つが、完全に「ポジティブな真理」となるのです！

わかりますか？

67 神が語られると、それはラジオのクリスタルに音が反響するように、

あなたの内側で反響して完璧になるのです。

神が「わたしはあなたを癒す主である」と仰せられたなら、

それですべては決着がつくのです。アーメン！

それが現実となるのです。

「わたしは世の終わりまで、あなたと共に、またあなたの内にいる」

——これも、本当になるのです。

主は今、ここにおられます。

これが、私が**神の癒し(ディバイン・ヒーリング)**を受け取る時の方法です。

あの日、主の御使いが現れて、「恐れるな。わたしはあなたと共にいる」

と語られたとき、

主はこう言いました：

「あなたの働きを通して、人々の中にするしと不思議を表すようになる」

私は尋ねました——

「でも彼らはそれを信じないでしょう？」

すると御使いはこう言われました：

「やがて、あなたは彼らの心の奥底までも知るようになる。

そのことを語るのだ。」

神は光であり、神のうちには、いっさいの暗闇がありません。

もし私たちが、神と交わりがあると言いながら、暗闇の中

を歩んでいるなら、私たちは偽っており、真理を行っていないのです。

しかし、もし私たちが、神が光の中におられるように、

光の中を歩んでいるなら、私たちは互いに交わりを持ち、

御子イエス・キリストの血が、すべての罪から私たちをきよめるのです。」

何と美しい御言葉でしょう……そう思いませんか？

16 それでは、しばし頭を垂れましょう。

天の父よ——

本日、ここに集ったこの美しき聴衆に向かって語れることを

感謝いたします。

この方々は皆、永遠に向かって歩んでいる人々です。

おそらくその多くはすでに、小羊の血によって洗われ、

その衣を白くし、きよめられ、

すべての罪と咎を赦され、

いまや天からの召しを待ち望んでいる者たちです。

私たちはこの時を用い、

海外へと遣わされる兄弟との小さな交わりの時を持ちにまいりました。

それは、あの大いなる使命——

「全世界に出て行き、すべての造られた者に福音を宣べ伝えよ」

——を果たすためです。

主よ、どうかこの親愛なる兄弟を祝福してください。

彼の宣教の旅を祝し、  
 今、彼の帰りを祈りつつ待ち望んでいる小さな教会をも祝福してください。  
 彼の留守を支える副牧師を、またすべての長老たちと会衆  
 を祝福してください。今、御言葉を朗読いたしました。  
 どうかこのひとときを、あなたとの交わりの時として祝福してください。  
 私たちは、主イエス・キリストのお名前によって、  
 この祈りをおささげいたします。  
 アーメン。

- 17 さて、御言葉——「交わり」について語る中で、  
 ここに来る途中でふと思いました。  
 ほんのしばらく、「交わり」そのものについてお話しするのも素晴らしい時間になるのではないかと。  
 というのも、これは実に大切なテーマの一つだからです。  
 誰もが、交わりを求めています。  
 今日の人々も、こんなふうにありますね。  
 「ちょっと家に寄ってくれませんか？ 少しでもおしゃべりしませんか？」と。  
 ほんのわずかな時間でも、誰かと心を通わせること——  
 それが「交わり」です。  
 また、ビジネスマンの多くもよくこう言います。  
 「今日の昼、ランチをご一緒しませんか？」と。  
 一緒に外に出て、軽くランチを食べたり、パイをひと切れ食べたりする——  
 そんなちょっとした時間。  
 そうです、交わりと「食べること」は、いつも一緒にあります。

そして、キリストがご自身の肉体を持って再び地上に戻って来られるとき、  
 そのとき、主は靈的に戻ってこられて、  
 新しい身体を携えた私たちを再び引き上げ、永遠に共に生きるのです。  
 アーメン！

ああ、もし今、人々がこの真理を本当に理解できたなら……

天使たちがこの通路を歩き回り、神の御子キリストがこの建物の中  
 を動いておられることに気づいたなら！

なんと違うことでしょう！

あなたは今、主の臨在の中にいるのです！

- 66 あなたの霊が、この目に見えない外の世界で満たされて、  
 帯電するようになると——  
 それはちょうど、ラジオの中にある磁石やクリスタルのようなものです。  
 ラジオの中にあるあの小さな装置が、  
 空中に飛び交っている言葉(=電波)に向かって完全に磁化されると、  
 それが接触して反応し、現実の音として出力されるのです。  
 ラジオを通して音がここを通っているのに、  
 私たちの肉の耳には聞こえません。  
 でも、クリスタルはそれを捉えるのです。  
 テレビも同じです。  
 その機械が帯電してポジティブ(肯定的)な信号になることで、  
 映像が出てきます。  
 同じように、私たちの知的な信仰(Intellectual Faith)が心の奥に届いて、

しかも、私たちは1億2千万光年先まで見える。

そして、その先にも、まだ星がある。

どこまでいっても宇宙は広がっている。

では——あの遙か彼方から、天使が地球に来るとしたら？

どれだけ時間がかかるとお思いますか？

……

答えは、瞬時です。

なぜなら、天使は神の命令によって動き、時空に縛られないからです。

この問いは、神の力の大きさと、霊的領域が物理法則を超えていることを私たちに気づかせてくれます。

あなたがどこにしようと、どれほど遠くに感じようと、神はあなたにすぐ届くお方です。

天使もそうです。主の御使いたちは、あなたのそばにいます。

65 さて、もしあなたが天国について語るとき——たとえば、  
「私たちは死んだら、どこか遙か彼方の場所に行く」と言ったとしても——  
それがどこにも見えないのは、

神が、その栄光を自然の目から隠しておられるからだ、  
あなたには見えませんか？

私たちは今、天の御座に座しているのです！（エペソ2:6）

今、ここに聖霊がおられます。今、キリストがおられます。

そして、私たちがこの世を去るとき、私たちは別の次元に  
入っていくのです。

そこは、主イエスと共にある祝福された場所。

食事の時というのは、交わりの時でもあるのです。

18 そして、こうしてこの午後に語っている間にも——

どうか神の聖霊が、神の御言葉をもって、

ここにおられるすべての飢え渴いた魂を豊かに養ってくださいますように。

交わりには、いつも「食べること」が伴います。

そして主は言われました。

「人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つの言葉によって生きる」と。

つまり聖霊は、信じる者と共に食卓を囲み、交わりを持つことを喜ばれるのです。

何という恵みの時でしょう。

私たちは今、まるで大きな食卓のまわりに皆で集まっているかのようです。

神の善なるものが、そこには山のように積まれているのです。

神はその豊かな祝福の中に、

私たちが必要とするすべてのもの——霊のビタミンも、栄養も、力も——  
すべてを備えてくださっているのです。

それは私たちが、満ち足りた、たくましい、健康なクリスチャンとして、聖霊に満たされ、小羊の血によって洗われて生きるためなのです。

なんと素晴らしい交わりの時ではないでしょうか！

19 こんなことを考えたことがありますか？

昔のことわざに、ある人が言った言葉があります——

（母がよく口にしていました）——

「同じ羽根の鳥は一緒に群れる」って。

その通りなんです。

ちよつと見てごらんさい。

鳩とハゲタカと一緒に群れているのなんて、見たことはありませんよね。

なぜかという、彼らは同じ食べ物を食べられないからです。

ハゲタカやカラスは、なんでもかんでも食べてしまう。

カラスなんか、外に落ちた死骸の上に平気で座って、それを食べます。

でも、鳩にはそれはできません。

もしそんなものを食べたら、彼女は死んでしまいます。

鳩には、そもそも食べられないのです。

鳩は、麦畑に飛んでいって、麦をついばみます。

そして、自分と同じような種類の仲間と一緒にいるのです。

でもね、ここで大切なのは——

カラスって、死んだものも食べられるし、麦も食べられるって、知っていましたか？

両方食べられるんです。

だから、気をつけなければならないのです。

礼拝に座って、まるで楽しんでいるかのように見せかけておいて、集会の後には世の中のものを取り戻す——そういうタイプの人たちがいます。

それが、今日の「ソーシャル・クリスチャン(社交的な信者)」の姿なんです。

でも、私たちはそうではなく——

世のものから離れ、キリスト・イエスにあつて新しく造り変えられた者たち

あなたのために本当に何かできるのは、イエス・キリストの血だけです。

それが真実です。

そして、その血があなたの心に入るとき、

あなたの心の考え方(mental conception)が完全に変わるので。

なぜなら、あなたは頭で考えるのではなく、ここ(心)で考えるようになるからです。

例えばこうです。

「ミス・ジョーンズはダンスに行っても全然平気だって言ってたし…」

そんなふうを考えるなら、それは頭で考えている証拠です。

でも、心にキリストがおられるなら、

あなたの思いは、イエス様が自分にしてくださったことに向かうはずで。

私たちに今必要なのは、

この主イエス・キリストとの素晴らしい交わりと、

神ご自身が私たちのただ中におられて、語ってくださることなのです。

64 さて、聞いてください。

この前、天文台でちよつと測っていたんですが……最後にひとつ、考えてほしいことがあります。

たとえば、あの星々——

光が地球に届くまで、どれほどの時間がかかるかご存じですか？

その速さは、光の速さです。1秒間に約30万キロ。

星のひとつから地球に届くのに、

何千年、何万年、何十億年といった時間がかかる場所さえあるんです。

光でさえ、です。

皆が心をつつにして、血の下に入ることができたら、どんなに素晴らしいことでしょうか。

ちょうどこの屋根の下にいるように、主イエス・キリストの血の下に。

そうなったら、どうなると思いますか？

この中に病んでいる人は、一人もいなくなるでしょう。たった5分以内に。

ああ、なんということでしょう。

あなたの隣に座っている罪人は、自分の罪に責められて、もうじっとしていられなくなるでしょう。

聖霊がその場に満ち、分離の水(waters of separation)——すなわち福音——が注がれ、

主イエス・キリストの完全ないけにえが説かれ、

カルバリー(十字架)から癒しの力が流れ出すのです。

もう私たちは、なんと素晴らしい時を過ごすことになることでしょう！

そのような交わりの中に入りたいと思う方、手を挙げてください。

63 さて、皆さん、よく聞いてください。

私は今日の午後、組織(オーガニゼーション)について少し厳しいことを言いました。

でも誤解しないでください——私は組織に反対しているのではありません。

神は私の心を知っておられます、それは真実です。

私は組織に対して特に何も思っていない。

けれども問題なのは、組織があなたのために何かしてくれると

思い込んでしまうことです。

そんなことはありません！

とともに集い、

聖霊の祝福のもとに交わりを持つことを喜ぶのです。

なんと素晴らしいことでしょう。

20 人間は、本来「交わり」のために創られた存在です。

最初の間——エデンの園にいた頃、

人は本当に素晴らしい交わりを持っていました。

神ご自身が夕暮れ時になると、人々と共に歩まれ、

男と女の集いの中に下って来られたのです。

涼しい夕暮れ、神はおそらく大きなヤシの木の下に来られ、

その聖なる光をアダムとエバの上に注がれていたことでしょう。

それはまるで、開かれた空の下に建てられた大聖堂のような場所でした

——  
神との交わり！

交わりがある限り、彼らには何一つ心配事はありませんでした。

私は人との交わりが大好きです。

主を愛する人々と語り合うのが好きです。

彼らとの交わりには喜びがあります。なぜなら、

私たちは同じものを見ているからです。

私たちの動機も、理想も、目指しているものも同じです。

私はね——ちょうどこの辺りに座っている友人の一人と、

よく一緒に狩りや釣りに出かけるんです。

何度も一緒に過ごしました。お互いに好きなものが共通しているので、

そういったことを話して過ごす時間もまた、素晴らしい交わりなんです。

でも——でもですね——

人が持ちうる最高の交わりというのは、やはり「神との交わり」なのです。

神がご自身を開き、

被造物である人間と、自由に交わりを持ってくださった——

創造主と被造物が、心を通わせる交わり。

これこそが、最高の交わりなのです。

21 神がエデンの園でアダムと交わっておられたとき——

アダムには、何一つ心配することがありませんでした。

すべてが滑らかに、整えられ、完全に保たれていました。

彼は服の心配をする必要もなかった。

食べ物心配もなかった。

病気の心配もなかった。

死のことも、悲しみのことも、まったく知らなかったのです。

まるで、自由そのものの子どものようなようでした。

彼には、天の父がおられ、その父なる神が彼を見守り、

毎日、交わりを持ってくださっていたのです。

——ああ、もし私たちも、もう一度あのような状態に戻ることができたら、

なんと素晴らしいことでしょう！

でもね、皆さん——

実は今もなお、贖われたすべての魂は、そのような神との交わりの恵み

を受け取る権利を持っているのです。

それを十分に生きていないだけなんです。

そして、そのときこそ、**血の下に来る (under the blood)** ののです。

すべての罪の問題は、外側で解決されています。

それは、**みことばの説教 (preaching of the Word)** と、

**祭壇での小羊のいけにえ (sacrifice of the Lamb)** を通してです。

そして今、私たちは**キリストとの交わり (fellowship)** の中に入り、

他の人々とも交わることができるのです。

かつてあなたが「あいつはホーリーローラーだ(狂信的な人間だ)」

と呼んだその人、

かつて「あの人はおかしくなった、気が狂った」と思ったその人、

でも一度、血の下に来て、交わりに入れられたなら——

あなたは、かつて「叫びすぎだ」と思ったあの人のところへ

歩み寄るでしょう。

あの夜、あなたが叫ぶ声を聞いたあの女性のところへ。

かつて癒しについて語ってきた、近所のあの人のところへ。

あなたは、その手を取りたくて仕方がなくなるのです。

「交わりの言葉を交わしたい」と心から思うようになるのです。

なぜなら——

あなたが血の下に来たからです。

62 血が流されなければ、罪の赦しはありません。

あなたがどれほど良い人でも、どの教会に属していても、どんな信条を唱え、どれほど祈っても、

血の下に来なければ、あなたは今も神との交わりの外にいるのです。

今、この場にいる私たち——およそ五、六百人の人々——

イエス・キリストの御身体の外に、交わりはありません。  
 神との交わりを持つことはできないのです。  
 だからなんです——  
 多くの人が**神による癒し (divine healing)**を信じられないのは、  
 だからこそ、**古き良きリバイバル (神が送られた真の目覚め)**  
 を信じられないのです。  
 だから、人の心をきよめるようなものを信じることができないのです。  
 まず、交わりに入らなければならないのです。  
 交わりに入る前に、何かを受け取ることはできません。  
 まず来なさい。  
 みことばを聞くのです。  
 みことばがあなたを切り分け(分離)、  
 あなたをきよめてくれます (washes you)。  
 その上で、血の下に来なさい (under the blood)。  
 そして**キリストの体の中に入る (into the body of Christ)**のです。  
 というのも、幕屋(タバナクル)はキリストの完全な型  
 (a perfect type)だったからです。

61 「この建物を壊してみなさい。三日で建て直してみせる」  
 と言われたでしょう？  
 つまり、イエス様ご自身が…そうです。  
 そして、私たちはみな一つの御霊によって導かれ、  
 キリストの御からだの中へと入れられるのです。

信じますか？  
 神は、この旅路において私たちに必要なすべてのものを備え、  
 養ってくださいます。  
 そして、やがてこの古びた肉の幕屋——この朽ちる体が終わるときには、  
 神は、私たちに新しい幕屋(からだ)を与えてくださると  
 約束しておられるのです。  
 アーメン！

22 実はね——  
 私には、ちょっと変わった「死後」についての考えがあるんです。  
 まあ、ここは“我が家”のような場所ですから、  
 思い切って話させてもらいましょう。  
 以前、ある女性からの質問に答えようとした時、  
 それが少し人と違う見解だったかもしれないのですが、  
 ジョセフ兄弟がこう言ったんです。  
 「ブラナム兄弟……」  
 私が言いました。  
 「ジョセフ兄弟、これはね、ぜひ伝えておきたいんです。」  
 すると彼は言いました。  
 「いや、ちょっと待って。言わない方がいいよ」  
 そしてこう続けたんです。  
 「私たちのこの教会では、信仰の声明や規則を書くとき、  
 “ピリオド(句点)”じゃなくて、“カンマ(読点)”で終えること

にしてるんだよ。

つまり、“私たちはこれを信じる”——そして、

**“さらに主から聞かされることがあれば、それも受け入れていく”**

という意味なんだ。」

……ああ、それは素晴らしい言葉だと思いました。

私はその姿勢がとても気に入っています。

23 ヨハネの福音書14章で、主イエスがこう言われました——

**「わたしの父の家には、住まいがたくさんある」と。**

主がご自分の弟子たちに、天に帰られる前に語られた言葉です。

でも私はね——

それが「石やレンガやモルタル」で造られた建物のことだとは、どうしても思えないんです。

私が信じているのは、主がここで語られた“家”というのは、別の「住まい」——つまり、別の“からだ”のことだということです。

「わたしの父の家には、多くの“幕屋”がある」——

そう理解できます。

また、主はこうも言われました。

**「この“幕屋”を壊してみなさい。三日でわたしがそれを建て直す」と。**

さらにパウロも言いましたね：

**「もしこの地上の幕屋(肉体)が崩れても、天にはすでに備えられたもう一つの家がある」と——そうなんです。**

ですから私は信じています。

つい最近、私はカリフォルニアのマウント・ウィルソン……いや、パロマー山の上に立っておりました。

彼はその7つの血のしるしの下を通過して進み、血の中に入っていきます。

そして、ついに彼は**交わり(fellowship)**に入ります。

わかりますか？

神との交わりです。

他のどこにも交わりはありません。

幕屋のすべての構造——

外庭では「義認(Justification)」、

祭壇では「聖別(Sanctification)」、

幕の奥(至聖所)には「聖霊(Holy Spirit)」が臨在していた。

それが一つ一つ、キリストの全体像を表しているのです！

どれほど人々が**組織化(organized)**しようとも、

**かつてコラ(Korah)**がしたように、

「モーセだけが聖なる者ではない。私たちの中にも聖なる者はいる」

と言って、組織を作ろうとしました。

その時、神はこう言われました：

「今すぐ、彼から身を離れなさい。

なぜなら彼は、神のご計画を壊したからだ。」

交わりは、たった一か所にしかないのです。

それは——

「注がれた血の下(under the shed blood)」の中だけ。

60 さて、クリスチャンの皆さん、よく聞いてください。

見てください。

教派の話ではありません。

キリストについてのことなのです。

キリストこそが、**罪人であるあなたの身代わりに死なれた犠牲 (sacrifice)**なのです。

今、もしあなたが交わりを失っていて、

祈りがまったく聞かれず、周りは真っ暗で、

何もかもがうまくいかない——それは、交わりの外にいるからです。

今こそ御言葉に戻ってきなさい。

御言葉は、**あなたを切り分ける (cutting)**のです。

「あなたはこれをしてはいけない」「これを捨てなさい」

「このままではいけない」——

御言葉があなたの中の罪をあばき、交わりを取り戻す道を示すのです。

あなたが聖餐に預かれないのは、交わりの外に出てしまったから。

だから、この「分離の水」こそが、

あなたがどうすべきかを教えてくれるのです。

59 それから、信じる者がそのように(=分離の水で清められたあと)した後に、次にすること——

それは、前へと進むことです。

信じる者(the believer)は、今、神のもとへと近づいてきているのです。

そして彼が戸口(tabernacleの入口)まで来たときに、目にするもの——それは、**7つの血の跡(7 stripes of blood)**です。

これはどういう意味でしょうか？

その血は、彼より先に注がれていた(=血が先に道を開いていた)のです。

そこには巨大な天文台がありましてね、1億2千万光年も先の光を観測できるんです。

その観測技術のタイミングの精密さ——本当に驚きました。

でも……科学が神学にすり替わると、いかに方向がずれてしまうか、痛感しました。

正直言って、学校で学んできた“科学”というものと、そこで聞かされた話とは、まったく別物のようでした。

24 私の父がよくこっそりと——つまり、聖書について話すときに、こう言っていたものです。

「ビリー、お前、聖書にはこう書いてあるが……」

「どうしてこんなことが……？」私は言いました。

「お父さん、太陽は完全に静止していて、地球が太陽のまわりを回ってるんだよ。これは科学的にも証明されてるんだ。」

すると父は言いました。

「でも、ヨシュアは『太陽を止めた』って言ってるぞ。」

私は言いました。

「どうやって説明するの？ お父さん、学校で習ったけど、それは科学で証明されてることなんだよ。」

父は答えました。

「ほう、証明されたってか？ それでもわしの考える“科学”とは違うな。」

父は本当に聖書を信じていました。

「ヨシュアが言った通りなんだ」と。

それで私は学校の聖書教師にそのことを尋ねたんです。

そうしたらその先生はこう言いました。

「もちろん分かるよ。あの時代の人たちは無知だったからね。  
だから神はヨシアの無知を受け入れて、実際には地球を止めたんだ。」  
でもね——今や科学は、それを覆さざるを得なくなったんです。  
太陽も動いているんです。  
太陽も自転していることが、科学的に証明されました。  
太陽も回っている。

25 私がまだ学校に通っていた子どもの頃——

先生はこう教えていました。  
「太陽が沈むと、その光が星々に当たって、それで星が光るんだ」と。  
でもね、今の科学では、それはあり得ないって証明されているんです。  
太陽の光が、たとえば一つの星に届くには——  
どれだけの速さで進んでいるとしても、  
何十億年、何百億年もかかるんですよ。  
だから、あの説明は成り立たないんです。  
星は今、独自に光を放っていると、科学は言っています。

26 ムーア兄弟の少年は卒業し、偉大な科学者の一人が数週間前にここに来て、彼を抱きしめ、彼に奨学金を与えました。彼は、「ワシントンDCには、科学的に証明されたすべての現代科学に関する最新の科学者向けの本が124冊あります。」と述べています。「若い人よ、彼らの本を読むのに2年かかるでしょう。そして、それらを読んだ後は、学んだことをすべて破棄する必要があります。「何か違うことがあるからです。」

そして彼がそう言ったとき、私はすぐそこに小さな「アーメン」を鳴らしました。しかし、私は立つてこれを言うことができると思いました、しかし私はここに年齢が何度も繰り返され、彼らが妥協する必要がないという本を持っています。インスピレーションを得ているため、常に同じです。彼らは毎回それに戻らなければなりません。すべての大人は学ぼうとします...科学を勉強しようとして

場所ではいけない。  
兄弟よ、  
もしも私がそういうことでしか人を集められない時が来たなら、  
私はもう福音を語るのをやめて、カナダで罫猟をして暮らしますよ。  
アーメン。  
私はむしろ、純粋で混じり気のない、イエス・キリストの福音に  
妥協するくらいなら、  
罫で暮らす道を選びます。  
私にとっては、主との交わりこそがすべてです。アーメン。  
御言葉を語るのです。  
こんなくだらない人集めは必要ありません。  
御言葉だけを握りしめなさい。  
そしてその御言葉が、罪人をその罪から分離するのです。  
58 それから、交わりから外れてしまった人は、まず会衆のもとに来て  
「分離の水」を受けるのです。  
そして、その人はこの水を振りかけられます(sprinkled)。  
では、それは何を意味していたのでしょうか？  
この水は、彼のためにあらかじめ捧げられた  
“死んだいけにえ”を象徴していました。  
つまり、その死んだ雌の赤い子牛(heifer)は、  
彼の代わりに死んだのです。  
そして、私たちが御言葉を語る時、それはどこかの

その後、牝牛は火の中に投げ入れられ、完全に焼かれました。

焼き尽くされたその灰は、庭(幕屋の庭)の外に運び出され、

ある「きよい場所(clean place)」に置かれました。

なぜなら、それは「**分離の水(the waters of separation)**」

となるためだったのです。

57 エペソ人への手紙の中でパウロはこう語っています。

「**神は、御言葉の宣教によって、“分離の水**

**(the waters of separation) “を与えた”**と。

「信仰は聞くことによるのであり、聞くことは神の言葉による」とも。

神の御言葉こそが、分離の水なのです。

それは「水によって、すなわち御言葉によって新しくされる

(エペソ5:26)」ことによって成し遂げられるのです。

御言葉を聞くことが、罪ある者を分離(separate)するのです。

さて、ここで見逃してはならない小さなポイントがあります：

「分離の水」は、きよい場所に保たれていなければならない。

つまり、福音を語る説教者もまた、きよく正しい人であるべきなのです。

タバコを吸う人、薬物依存者、酒に酔う者、

日曜の午後にドッグレースをするような人物ではいけません。

神の奥義を心に抱く器は、きよく、聖別されていなければならないのです。

そして、それは教会も同じです。

地下でビンゴをしたり、くじ引きをしたり、

スूपの集いをしたり、若者向けのダンスパーティーをするような

あなたの髪を白髪にします。ただ神の聖書を研究してください。なぜならそれはすべての中で最も純粋な本だからです。

27 私はこう考えています——

この魂が肉体を離れるとき、私たちは「人の手によらない家」

に入れられるのです。

私たちは神の御前へと移され、

**主イエスの臨在の中にある幕屋(住まい)**に入ることになるのです。

そこには全能なる——いや、全知・遍在されるお方がおられます。

そして、もし主が本当に遍在なるお方であられるなら、

私たちがあちらの新しい幕屋に入るとき、私たちもまたその中において

遍在の領域に入ることになるのです。

それに、主イエスはこう言われましたね。

「ふたりまたは三人がわたしの名によって集まるところには、

わたしもその中にいる」

ならば——この午後、主は確かにここにおられるのです。

天と地が確かにあるのと同じくらい確かなことです——

今、この場にイエス・キリストがおられるのです！

ただ、そのお姿が見えないかたちでおられるというだけのこと。

私たちの目には見えなくても、クリスチャンの魂には何か分かる

のです——目には見えない「ご臨在」の中に、

自分が立っているということ。

28 今この部屋の中にも、ラジオの電波が流れているのは、

皆さんご存じですよ。

テレビの電波だって、ここを通っているんです。

でも、私たちにはそれが見えません。受信機がなければ、拾えないからです。

それと同じように——

今この部屋には、神の御使いたちが取り囲んで、見守っているのです。

「主を恐れる者のまわりには、主の御使いが宿営している」——

これは聖書の約束です。

イエス様は、いつもどこにでもおられ、私たちを見守っておられます。

これは確かな真理です。

私はいつも、あのドタンにいたエリヤのことを思い出します。

ゲハジが外に出て見ると、こう叫んだのです。

「ああ！ シリアの軍勢が町を取り囲んでいます！

私たちは完全に包囲されてしまった！」

けれどもエリヤは言いました。

「我々と共にいる者は、彼らと共にいる者よりも多いのだ。」

ゲハジは、「でも、私には誰も見えません」と答えました。

するとエリヤは祈りました。

「主よ、この若者の目を開いてください。」

そしてその目が開かれたとき、彼は何を見たでしょうか？

山々は炎に包まれ、火の車と火の御使いで満ちていたのです。——

そう、確かにそこにおられたのです。

そして今も——

この「牝牛」はキリストを表しているのです。

そしてキリストは何にもくびきを負っていません。

(アーメン！)

ただ神とだけ結びついておられたのです。

ですから聖書はこう言っています：

「信じない者たちと、つり合わないくびきを負ってはいけない  
(Be not unequally yoked with unbelievers)」

つまり、あちこち出かけて行って、パーティーだの、ダンスだのに中途半端に関わっているようではだめだ、ということです。

そういう世的なもの自分を結びつけてしまわないでください。

あなた自身をキリストと共にしてください。

そして主はこうおっしゃっています：

「わたしのくびきを負いなさい。そして、わたしから学びなさい(Take my yoke upon you, and learn of me)」

56 この牝牛(heifer)には、くびき(yoke)を負わせてはならなかったのです。

一切のくびきを負っていないことが求められました。

そして彼女(牝牛)は、大祭司の前で屠られなければなりませんでした。

大祭司アロンが、その牝牛が屠られるのを見届けた後、エリエゼルがその血を指に取り、会見の幕屋の入口の門に、七度、それを振りかけました。

これは公に証するための行為(public testimony)でした。

その言葉がただの知的理解ではなく、この小さな部屋(心)に沈み込んだ瞬間、シカゴ中の医者が全員かかっても、「あなたは死にますよ」なんて言えないんです。いや、絶対にそんなことはありません。絶対に。これが神のなさることです。神はまさにその時に働かれて、知的な信仰を、心の中へと語り込むのです。そしてそれが心に届いたとき、それは「絶対的な確信(positive)」となるのです。実際には、神ご自身が人の心に宿られて、それを動かさない事実(positive fact)とされるのです(アーメン!)。つまり、信仰が頭から心に移った時に、それが真に力を持つのです。

55 さて、「注がれた血のもとに」あって、主はこう言われました：  
「三歳の雌の赤い牝牛(heifer)を連れて来なさい。そして、その牝牛には、首に一度もくびき(yoke)をかけたことがあってはならない。」

——ああ、この箇所、私は本当に大好きです。今からお話しすることは、少しチクチクしたり、耳に痛かったり、焼けるように感じるかもしれません。でも、それはほんの一瞬ですむこと。永遠に焼かれるより、今ほんの少し焼ける方がずっと良いのです。よく聞いてください。

信じる者が「主が今ここにおられる」と信じるなら、まさにそのとき、私たちはキリスト・イエスにあって天の場所に共に座しているのです。キリスト・イエスにあって——御言葉のまわりに集い、交わり、アーメン！聖霊がここにおいて、御言葉を幻によって、心から心へと運び、信じるすべての者のうちに届いていく——御言葉が語られるごとに、信じる者がそれを受け取る。ああ……もし私たちが、神が与えてくださった特権を本気で立ち上がって宣言することができたら！そうなったときこそ——

神は私たちの背中から“願望だけの骨”を抜き取り、真の“福音の背骨”を据えてくださるのです！どんなに暗く見えても、真理のために立ち上がる者を、主は求めておられます。

29 神は、あのヘブルの若者たちに会われました——神は、自ら火の炉の中に歩いて入って行かれたのです。何かをされる前から、すでにそこにおられたのです。神はいつもそこにおられます。恐れてはいけません。神は常にともにおられるのです。アーメン。それなら——

「正しい者の歩みは主によって備えられる」とあるなら、

私たちはいったい何を恐れる必要があるのでしょうか？  
 神があなたの味方であるなら、誰があなたに敵対できるというのか？  
 ああ、なんということか……考えてみてください。  
 天のあらゆる力、御使いたちが集まり、ひとつの集会を囲んでいる。  
 アーメン！  
 まさにそのことを、今私たちは知ろうとしているのです。  
 それはまるで、聖霊が御言葉を用いて、空気ハンマーのように、  
 岩に向かって力強く打ちつけているようなものです。  
 ああ、主よ——！  
 私たちの石のようにかたくなな心を砕き、  
 不信仰を取り除き、  
 御言葉のまわりでの交わりの中へと導いてください。  
 交わりは、なんと素晴らしいものでしょう！

30 アダムとエバが罪によって神から自ら離れてしまったとき——  
 その交わりは断たれ、彼らは「さまよう者」になりました。  
 交わりはなくなり、あちこちをさまよい、力を失っていったのです。  
 それこそが、今日の人々の姿に重なります。  
 罪が、人を神との交わりから引き離しているのです。  
 そして今、私たちは「これをどうすればいいだろう」  
 「あれをどうすればいいだろう」と悩み、迷っています。  
 でも、イエス様はこう言われました。  
 「異邦人は、何を食べようか、何を着ようか、あれはどうしよう、

そう言いながらも、  
 タバコを吸い、  
 ウイスキーを飲み、  
 ダンスホールに出かけ、  
 ビーチに寝そべり、  
 世の流行を追い回している……  
 そして平気でこう言います：  
 「キリストは私の救い主さ。もちろん。私は教会員だよ」  
 でも、それはただの知的信仰です。  
 多くの人が祈りの列に並びながらこう言います：  
 「兄弟、私には信仰があるよ、もちろんあるさ」  
 でもそれは、**頭だけの信仰 (intellectual faith)**なんです。

54 しかし、その知的な信仰 (intellectual faith) が、ここ (胸に手を置いて) にある小さな部屋——心の奥の部分——にまで降りてくると、それは「確信 (positive)」になるのです。  
 そうなると、地獄の悪霊が全員かかってきても、それを動かすことはできません。  
 その通りです。  
 そこに届いた時、罪の問題は完全に解決されるのです。  
 アーメン！  
 神が「わたしはあなたを癒す主である (I'm the Lord that healeth thee)」とおっしゃるとき、

昔の科学はこう言っていました：

「人間は心(heart)で考える？——ばかげている！

聖書は間違ってる。

心には思考するための知能的機能なんか無い。

人間は**頭＝脳(mind)**で考えるのだ」と。

でも今では、神の方が正しかったとわかってきたのです。

そう、人間は頭だけで考えているのではないのです。

人間は**二重の人格(二重構造)**を持っている。

いいですか、まず**知的な部分(intellectual)**があります。

しかし科学者たちはこう言っています：

人間の心の中——

それも動物の心ではなく、人間だけの心の中に——

中心部に、血液細胞すら存在しない小さな空間がある

その部分が、**魂(soul)**の居場所なのだ、と。

つまり、人間は本当は「心」で考えているのであって、

ただ「頭」で考えているのではないのです。

53 さて、これが今の時代に**多くの教会員がなぜぬるい(lukewarm)**のかという理由だと、私は思うのです。

人々は**知的な信仰(intellectual faith)**を持っているだけです。

彼らは同情してこう言うのです：

「うん、聖書は正しいよ。もちろん、いいことが書いてあるよ」と。

つまり、彼らは頭では信じているのです。

「イエス・キリストは神の御子だって信じてる。私の救い主だよ」——

これはどうしようと、そんなことばかりを求める。」

しかし主はこうも言われました。

「あなたがたの天の父は、あなたがたが求める前から、

何が**必要か**をご存知なのだ。」

——それが、**真の安心に満ちた状態**なのです。

私は思うのです——

下のほうにいる、茶色い目の小さな娘のことを。

フェンスの上からでも、どこからでも、彼女はぴよんと飛び降りるんです。

全然気にしていません。

私がそこに立っていさえすれば、彼女は平気なのです。

「パパが受け止めてくれるもん！」——彼女はそう信じているのです。

だから、何の不安もない。

私は心の中でこう思いました。

「ああ、神さま……私も、こんなふうに“無心に、

すべてを委ねる者“でありたい。」

ただ、信頼して、心配せずに生きたいのです。

31 数日前のことでした——

ジョセフ兄弟が、私に大きな励ましをくれたのです。

というのも、最近いくつかの教会で、

本来あってはならないようなことが起こり始めているのを見て、

私は心を痛めていたのです。

ああ、私のようなアイリッシュ(アイルランド人気質)の人間は、

そうなるともう、全部自分で出て行って、止めに行かすにはられない。  
「これはいけない！ こんなことは許されない！  
こんなことをしていたら、神のご計画に逆らうことになる！  
御言葉に反しているし、間違っものが持ち込まれている！」——  
私はそう叫びたくなったのです。  
私はそれが間違っていると確信していました。  
聖書的にも、絶対に間違っていると。  
でもね……  
そのうちに私は、自分自身がだんだんと“ずれ”始めて、  
心が苦々しくなっていることに気づいたんです。  
それで私は牧場に出て行き、祈り始めました。  
その時、ジョセフ兄弟が来てくれて、こう言ったのです。  
「ちょうど今、マルティン・ルターの伝記を読んでいたんだ。  
人々が驚いたのは、彼がカトリック教会に抗議したことではなくてね——  
あれほど多くの狂信的な動きがついて回ったにもかかわらず、  
マルティン・ルター自身がそのすべてから引き上げられて、  
立ち続けたってことなんだ。」  
——それが一番大事なことなんだと。  
そして、私は思い出しました。主イエスご自身がこう  
言われたではありませんか。  
「それがあなたに何の関係があるのか？ あなたはわたしに従いなさい。」  
「あとのことは、わたしが責任を持つ。あなたはただ、

ところで皆さん、科学的にこういう現象をご存知ですか？  
真っ赤なものを、もう一つの赤を通して見ると——白く見えるんです。  
ご存じでしたか？  
赤い色を、赤で見たとき、白に見えるんです。  
それを神は御存知でした。  
神は、人が本性として罪人であることをご存知でした。  
最初から間違っ状態であることを。  
だから神は、「流された血による備え」を設けられたのです。  
そして、神が見るとき——  
主イエスの血を通してその人をご覧になるとき、  
赤い罪人を、「雪のように白く」見られるのです。  
あなたにはもう、罪はありません。  
あなたがどんなことをしてきたか、  
どれほどの罪を犯したか、  
どんな過去があろうとも——  
キリストの血があなたの心に適用されているならば、  
神はあなたを「完全な者」としてご覧になるのです。

52 さあ、今から数分で**神の癒し(ディバイン・ヒーリング)**といくつかのこと  
について、ちょっとした秘密をお話ししましょう。

まず第一に、大切なのは——  
人間の心の備えです。  
はい、そうです。  
数日前、私はここシカゴにいました。

神の御前に出て、それを告白し、「どうか助けてください」と願いなさい。  
 モーセが祈りの答えをすぐに受け取ったのは、  
 彼が神の方法に従い、「血の下」に入ったからです。  
 交わりを持つ前に、彼は「血の下」に行ったのです。  
 注目してください——子羊はすでに屠られていたのです。  
 旧約時代には、「赤い雌牛(レッド・ヘファー)」という規定がありました。  
 イスラエルの旅が始まる時、神はモーセにこう言いました。  
 「旅を続ける中で民がもし罪を犯したなら、  
 その者は神との交わりから外れる。  
 だから、その人々が再び交わりに戻るための  
**『分離の水(waters of separation)』**を備えなさい。」  
 そこで、モーセは神から命じられました：  
 「赤い雌牛(若い牛)を連れて来なさい。」  
 ここで、「赤い」という言葉には意味があります。  
 私たちの常識では「赤」は「危険」を表しますが、  
 聖書における「赤」は「贖い(redemption)」を意味します——  
 血による贖いです。  
 創世記から黙示録まで、聖書全体には「赤い筋(血)」が貫かれています。  
 最初から最後まで、血、血、血——すべては「流された血」  
 を通してなのです。  
 ですから、彼らは「流された血の下」に来なければならなかったのです。

51 「さあ」と主は言われました、「赤い雌牛を取れ。」

わたしについて来なさい。」

——これなんです。これが答えです。

そして私は、もう一度“心配のない平安な状態”に戻ることができました。

よし、これで大丈夫だ。

32 人が神から自分自身を切り離したとき、

彼はさまよう者となり、あちこちを彷徨う存在になってしまったのです。

そして——これはまさに今日の姿そのものです。

人が本当に神との交わりを失ってしまうと、

今週は「メソジスト」、来週は「バプテスト」、その次は

「あれ」や「これ」や「どれか」——

風に吹かれて揺れ動く葉のように、あらゆる教えに翻弄されるようになってしまう。

でも——心というものは、しっかりと確立されていなければなりません。

私は、「メソジストになれ」とも「バプテストになれ」とも

言っているわけではありません。

そうではなく、あなたが“神と正しい関係にあるかどうか”——

そこが大事なんです。

それだけです！

あなたがどの教会に属しようとする、どのグループと交わろうとする——

アッセンブリーであろうと、ワンネスであろうと、ツーネスであろうと、

ラターデイ・レインであろうと、何であつても——

大切なのは、あなたの“神との交わり”が清らかであることです。

アーメン!

聖書にはこうあります——「イエス・キリストの血が、  
すべての罪から私たちをきよめる」

そしてそれによって「私たちは互いに交わりを持つことができる」

——アーメン!

ああ、私はこれが大好きです!

でも……ここからなんです。

神が、交わりから離れてしまった人間をご覧になったとき、

神は「何かをしなければならぬ」と思われたのです。

ご自身の被造物を、もう一度御心へと引き戻し、

再びその心を取り戻すために、

神は道を開かなければならなかったのです。

——そして、ここからが「悲しい物語」の始まりなのです。

33 人は、神との交わりの代わりになるものを、始まりの時からずっと  
探し続けてきました。

そして今日も——私たちはこう言います。

「さあ、うちの教会に入りなさい。ここに“それ”がありますよ。」

メソジストは「うちの教会こそが」と言い、

バプテストは「こちらこそ」と言い、

カトリックも、長老派も、ペンテコステ派も、

アポストリック(使徒教会)も、みなそれぞれが「

自分たちこそが正しい交わりを持っている」と主張しています。

と説教すれば、

本当の信者は「その通りです、アーメン」と言います。

——それが御言葉を囲んで交わるということです。

おわかりいただけましたか?

49 さて、神が人と会うと約束された唯一の場所というのは、

昔も今も変わらず一つだけです。

それは——神は決して宗派(デノミネーション)の中で人と会う

とは約束されませんでした。

神が人と会うと約束された唯一の方法は、ただ

「流された血(shed blood)」を通してのみなのです。

旧約聖書のイスラエル人においても、

彼らがどこにしようとも、神を礼拝する前には、ある共通の

「会場の場」に来なければなりませんでした。

それは、荒野の中の「幕屋(タバナクル)」でした。

もし誰かが丘の向こう側にいたとして、神との交わりを望むなら、

その人は荒野にある幕屋へとやってきて、そこで神に出会ったのです。

たとえばモーセが、ミリアムが重い皮膚病(ツアラアト)にかかった時、

彼は幕屋に入り、神の御前に倒れて祈りました。

——それは、流された血の下においてでした。

50 今夜、あなた自身の立ち位置をはっきりさせなさい。

「血の下(キリストの血潮のもと)」に自分を置くのです。

あなたの心の中にあるすべての汚れ、間違いを取り除き、

集められていた。——準備が整えられていたということです。

もう一つの例を考えてみましょう。

イスラエルが神と交わり(フェローシップ)を持ったとき

何をしたでしょうか。

大いなる破壊が起きる前——つまり、破壊の天使がやってくる前——

まず神がイスラエルに命じられたのはこうです：

「小羊を取り、それを殺し、その血を戸口に塗りなさい。

そして各家族がその家に入り、その小羊を食べるのです」——

焼かれた小羊を囲んでの交わり(フェローシップ)です。

彼らの代わりに死んだ犠牲の体を食べることによって交わったのです。

神はこう言われました：

「わたしがその血を見たとき、あなたがたを過ぎ越す。

死の使い(天使)は彼らに触れることができなかった、

なぜなら小羊の血が戸口にあり、彼らは家の中で“交わりの食事”

をしていたからです。

これは、私たちの心に主イエスの血を適用し、すべての罪

を取り除いたときにも同じことが起こります。

その時、私たちは神の食卓を囲み、神の御言葉を食べながら交わり

を持つことができるのです。

あなたが“神の癒し”について説教をするなら、キリストのうちに

ある者は皆「アーメン」と言うでしょう。

また、「すべての罪や悪意、争いごとを捨てなければならない」

そして彼らは、「信条(クリード)」という宣言書を作り、

教会をその信条のまわりに築き上げ、

「これこそが交わりの道だ」と言っているのです。

でも——よく聞いてください。

そんな方法では、真の交わりは得られないのです。

たとえこの国にあるすべての教会に加入したとしても、

キリストとの交わりから外れていることだってあり得るんです。

神は、初めから唯一の道を示されました。

それは——ある小羊を屠り、その血によって、

人類に「戻ってきなさい」と歓迎のしるしを上げられたのです。

その道こそが、“血による交わりの回復”です。

アーメン！

34 今ではもう、血潮について語られることが、

ほんとうに少なくなってきました。

人々は、ほかのことばかりを語っています。

時代のことや、原子爆弾のことなど——。

そういう話題も悪くはありません。

でも——兄弟よ、私にとっては、これだけははっきりしています：

「血が流されなければ、罪の赦しはない」のです！

そして、その血が正しく適用されたとき——罪は完全に取り除かれ、

人は再び神との交わりに戻されるのです。

アーメン！

今、私たちに本当に必要なのは——

“血によって買い取られた、昔ながらのリバイバル”なんです！

アーメン！

命は血の中にある。

そして、キリストの血が私たちをすべての不義からきよめるとき、

私たちは神と交わりを持つことができるようになるのです。

もちろん、あなたは悔い改めることもできる。

そして「信仰告白」して、半年間の審査期間を経て、

メソジスト教会に正式に加わることもできるでしょう。

そうすれば、その教会内の皆と交わりが持てるようになるでしょう。

あるいはバプテスト教会に行って、「交わりの握手」を交わり、

信仰を告白し、水のバプテスマを受けて、

その教会とも交わりができるようになるでしょう。

またペンテコステ派の教会では、

しばらく祈って「異言を語る」経験をして、

皆と霊的な交わりを持つこともできるかもしれません。

——でも、兄弟姉妹よ。

あなたの魂が、イエス・キリストの血によって洗われていない限り、

あなたは決して、主ご自身との真の交わりを持つことはできないのです。

これが真理です。アーメン！

35 そして——あなたの魂が子羊の血で洗われたとき、

悪意も、憎しみも、ねたみも、争いも、すべて死ぬのです。

「彼が何派であろうと関係ない。神が彼と共におられる。」

でも当然ながら、アッセンブリーズ(Assemblies)も自分たちの

“リトル・デイビッド”を持たなきゃならなくなった。

そしてチャーチ・オブ・ゴッド(Church of God)も自分たちの

“リトル・デイビッド”を用意した。

そしてどうなったかという——

「リトル・デイビッド」が何千人も生まれてしまった。

神が子どもたちに伝えようとしていた本当の原則を、

人々は台無しにしてしまった。

彼らは自分たちの時代がわかっていないのです。

「牛はその飼い主の飼い葉桶を知り、ロバは自分の主人の厩

(うまや)を知っている。しかし、わが民はわからない」と神は言われた。

その通りです——

彼らは自分たちの訪れの時を知らないのです。

神の民に「いまが訪れの時だ」と気づかせるのは、

**とても奇妙で困難なことです。**

彼らはすぐに誰かの人格や人間的なことに引きずられてしまい、

それをどう扱っていいか分からなくなる。

そしてキリストとの交わり(フェローシップ)に入るべきなのに、

代わりに宗派へと引き込まれてしまうのです。

48 それからヨブは、自分がしてきたこと——つまり犠牲をささげてきたこと

を見て、聖書はこう言っています:彼の子どもたちは彼とに

アッセンブリーズ・オブ・ゴッド(神の教会)から誰かが立ち上がると……

(※以下未完)

46 [テープの空白部分あり]……会場は約7,000人収容で、その外に約7,000人が立っていた。そして彼のところには約3,000人いた。「じゃあ、交代しよう」と。

それで、彼(リトル・デイビッド)に会いに行ったとき、最初は、小さな男の子がナーサリーライム(子ども向けの歌や詩)のように、イエス様が飼い葉桶で生まれた話をするんだろう、と思っていた。

でも、その子を見た時には、全然違った。

その小さな男の子は、これくらいの背丈しかなくて(ジェスチャーしてるような文脈)、私はそれがリトル・デイビッドだとは気づかなかった。彼は上着を脱ぎ捨てて、聖句を取り上げて、まるで本物の説教者のように説教していた。

その時、私はこう思った。「この子は神が送られた子だ。」

だから私はこう言ったんだ——

「あなた方教会の“お父さんたち”がこの子をちゃんと囲んで、彼の頭が高ぶらないようにして、お金のことで逸れて行かないようにして、正しい影響を与えて育てれば、彼は何千人という子どもたちを救うことになるだろう」と。

47 でも私は、オレゴン州グランツパスのBrother Hallたちの前で立っていた朝のことを思い出します。

私はこう言いました——

「見ていてください、これはうまくいかないでしょう」と。

私はグループの何人かに言いました。

「今こそあのリトル・デイビッドをこの街に呼んだらどうです?」

すると彼らは言いました、

「でも、彼はワンネス(単一神論派)じゃないか。」

私は答えました——

血が贖いを成し遂げるのです。

アーメン!

今、私たちのペンテコステ派の交わりや、さまざまなフルゴスペル系の交わりの中に、

なぜこんなにも混乱や分裂や“持ち込みごと”が多いのか?

それは、さまざまな“イズム(主義)”や流れが入り込んでしまっているからです。

ある者はそこから抜けて何かを始め、

また別の者は別の方向に分かれ、

誰かが抜け出して、新しい教派や組織を立ち上げる——

そのすべての根本の原因は何か?

その人の心が最初から、神と正しい関係に置かれていなかったということです。

神は、私たち皆を一つのからだ——

聖霊によってバプテスマを受けた、一つの信者のからだとして歩ませたいと願っておられるのです!

アーメン!

ああ、なんと素晴らしいことか!

神は、交わりを回復するための「一つのマット(敷物)」を備えておられました。

それは、“歓迎のマット”——血による回復の道です。

一度失われた交わりを取り戻す道は、ただ一つ——「血を通して」です。

血によって、神との交わりへと回復されるのです。

36 アダムは、自分自身の神学では神と会うことができませんでした。彼は自分で無花果の葉を縫い合わせて身体を覆いましたが、それでは通用しなかったのです。自分で“組織”を作り、自分で“教派”のようなものを立てた——でも、それでは駄目だったのです。そして、今日も……

ああ……この町を通ってくる途中、私はヌーディストの集落(コロニー)の横を通りました。この道沿いにあるんですよ。日差しが本格的に強くなるのを待ちきれないのか、海辺で男女が共に、裸になって寝転がっている……。それはまるで——なんとはいか分からないような、ひどい有様です!

その中のほとんどすべての人が、どこかの教会に所属している可能性がある。ロザリオを手に数珠をまわしながら祈っていたり、あるいは教会の聖歌隊でドクソロジー(栄光頌)を歌っているかもしれません。でも、その彼らがあんなふうにして平気にいる——これは、何かが緩んでしまっている証拠です!

道徳的な存在であり、常識を持った人間が、そんな行動をするはずがない。

嵐がやって来て、彼らを襲い、多くを死に追いやり、火で焼き尽くしました。全てが奪われてしまいました。しかしその前に、ヨブはちゃんと確かめていたのです。すべての子どもたちが「血の下にある」ことを。アーメン。

45 拒んで、今日もキリストを退けている……

この国は、できるだけ早くキリストを殺そうとしているかのようだ。教義や形式的な宗教で聖霊を悲しませ、遠ざけている。聖霊を悲しませているのだ。少し前に読んだ、あるいはどこかで聞いた話だが……有名な伝道者、ビリー・グラハムがスコットランドにいたときのことだった。わかるだろうか? もしペンテコステ派の人々が心をつにできていたなら、いまのバプテストのように、力強いリバイバルを経験していただろう。だが現実には、バラバラになって、あれこれ分派を作ってしまったから、その働きはバプテストたちに奪われてしまった。そう、彼らはリバイバルを起こし、前進している。持っていたものすべてを投げ出してでも、自分たちの預言者を支え、一丸となって進んでいったのだ。だが今、ペンテコステの世界では?

そして、そうすることが「本当にすべきこと」なんです。

私は多くの家庭を訪れたことがあります、

いつも家族そろってお祈りしている家庭があります。

神よ、その家庭を祝福してください。

それが「絆(きずな)」なのです。

もし皆さんが、毎晩家庭でそうやって祈っていたら、

今のように離婚が多発するようなことも起こらなかつたでしょう。

家庭内で本当の交わり(フェローシップ)があつたはずですよ。

44 そして私は、ヨブが子どもたちを見送る姿を思い浮かべます。

子どもたちが結婚し、それぞれ別の道を歩み出し、

まるで巣立った鳥たちのように離れていったのです。

ヨブはよく分かっていました。

人間が神に近づき、交わりを持つ唯一の方法は、

犠牲の小羊、すなわち血を通してのみであるということ。

だからヨブはこう言いました。

「あるいは子どもたちが罪を犯したかもしれない。だから、

彼らのために小羊をささげよう。」

何かがヨブに語りかけたのです。

「準備しておかなければならないぞ。用意しておいた方がいい」と。

そしてヨブは、子どもたち一人ひとりのために、

犠牲の小羊をささげました。

そんなある日、ついに出来事が起こつたのです。

兄弟姉妹、それは真実です。

もしあなたの心が、一度でも本当にキリストに触れられたなら——

あなたは、そんな場所には近づかないはずですよ！

アーメン！

……今、これに同意できないという方もいるかもしれません。

でもね——

あなたの心の奥深くが、ただ一度でも正されて、

キリストの御手に触れられたなら——

神がそのことについて、何をされるか見てみてください。

37 言わせてください——

私の小さな娘でさえも……まだたった2歳ですよ。

先日、家の外に出て遊んでいた時のことです。

庭で、ある女性が草を刈っていたのですが、信じられないような

小さな服を着ていたんです。

するとその2歳の子が部屋に戻ってきて、こう言ったんです。

「パパ、あの女の人、スカート忘れてるよ。」

……ね？ そこなんですよ。

おチビちゃんできえ分かってる。

でも、男も女も、その心が焼けただけ、麻痺してしまうとき——

そこには悪霊、サタンの力が働いているのです。

歴史を通して、人から恥を取り去り、裸にしたものはたった一つ——

それは“悪霊”です。

女性を——いや、男性も同じです。

あの浜辺で裸になって転がっている姿など、

まるで先史時代の獣たちの群れのように……

良心も、羞恥心もない。

聖書はこう言っています：

「彼らの良心は、焼きごてで焼かれたように鈍くなる」と。

そして——

私が今言っている、実際に知っているその女性も、

教会の聖歌隊で賛美を歌っているのです。

……なんということでしょう！

彼らは、自分のグループとは確かに“交わり”を持っている。

ええ、もちろんです。

でも、キリストとの交わりは？

——あるでしょうか？

兄弟姉妹よ、これは強い言葉です。私もわかっています。

でも——神が私たちが憐れんでくださらなければ、

ペンテコステ派の教会は十字架の血から離れ、滅んでしまいます！

だから——戻るべきなんです。

かつて、昔の私たちペンテコステの人々にとって、

そんな振る舞いは罪でした。

そんなことはしなかったのです。

でも今では、彼らもやっている。

「小さいときにベビーロール(教会の幼児名簿)に入れておいたし、あとは日曜学校の先生に任せたわ。」

でもその“先生”が、前の晩にはダンスに出かけて、

まるでサーカスにでも行くかのような格好で、翌朝教会に来ていたらどうでしょう？

そんな人に、あなたの大切な子どもを任せるんですか？

お母さん、それは恥ずかしいことです！

その子どもをあなたの膝の上に座らせて、聖書を一緒に読んであげるべきです。

あなたの手をその子の頭の上に置いて、神に叫び求めるべきです。

「神よ、憐れんでください。

どうか私の娘を、私の息子をお救いください。」

——そうすべきなのです。

43 私はそれをするのが大好きなんです。

あの小さな娘たちを膝の前に座らせて、

キラキラした目で見つめ、じっと耳を澄ませている姿を見ながら、イエス様のことを話すのです。

イエス様がどれほど彼女たちを愛しておられるかを話してあげるんです。

すると、彼女たちは自分から進んで椅子のまわりにひざまずいて、

私たちと一緒に祈りするんですよ。

これが「私たちがやるべきこと」ではないでしょうか？

多くの方々も、きっとそうしておられるでしょう。

——神は、それでもあなたを受け入れません。決してです。

「母は敬虔な人でした。父も立派な人でした。祖父は牧師でした。

私は悪いことをしたことはありません。

盗まず、飲まず、煙草も吸わず、嘘もつかず、潔白に生きてきました。」

——それでも、神はあなたの声をお聞きにはなりません。

しかし、あなたが誰であれ、どんなに過去がひどくろうと、

もしあなたが、神が定められた方法——犠牲の血を通して——来るならば、

死にゆく子羊の頭に手を置き、自らの過ちを告白し、

その方(イエス)を受け入れるならば、

神はあなたの魂に聖霊を満たし、すべての不義と肉の性質を焼き払い、

あなたを新しい創造物とされるのです。

42 ヨブについて考えるとき、私は「父親」としての彼の姿を思います。

ヨブには多くの子どもたちがいました。

彼らは少し気ままなところもあったようです。

けれど、ヨブはいつも子どもたちのことを気にかけていました。

もし、シカゴのすべての教会員たちが、自分の子どもたちに対して

同じような心を持っていたなら、

少年犯罪なんて起こらなかったはずです。

銃撃や殺人、盗み、レイプや暴動……今あるようなこんな事件は

起きなかったでしょう。

それは、親たちが自分の子どもたちに関心を持たなくなったからです。

最初はこう言うんです。

なぜか？

それは、講壇(説教台)がゆるんできたからです。

38 あなたが「この教会に属している」とか、

「この教派だ」とか、

「この団体の一員だ」とか——

そんなことばかりを考え始めたとしたら……

今すぐ、もう一度キリストとの“交わり”を持ちなさい!

アーメン!

やがて来る裁きの日には、恐ろしいことが起こるでしょう。

最大の失望が待っているのは——ブートレガー

(密造酒売り)ではありません。

ああ、彼らは自分がどうなるか分かっている。

嘘をつく者や、盗む者たちも、

神の御前に立つとき、自分の行き着く先を知っているのです。

でも——本当に恐ろしい“失望”が待っているのは、

ペンテコステの教会に属していながら、知っていたのに、

わざとその中に歩み込んでいった人たちなのです!

そのとき、彼らは退けられ、裁かれるのです。

なぜなら——彼らは「知っていた」からです。

アーメン! ハレルヤ!

39 今、私たちに本当に必要なのは——

「昔ながらの霊的衝撃を伴うリバイバル」なのです!

もう一度、主イエスの血の下へ——交わりの中へ——戻っていきましょ  
う!

それこそが、人が神に近づく唯一の方法であり、  
時代を超えて、ずっと変わることのなかった神の道なのです。

聖書の中で最も古い書物は『ヨブ記』です。

そしてヨブは——

「ほふられた血」を通して、神に近づき、交わりを持っていました。

ヨブは、交わりを持つたびに一匹の子羊を献げたのです。

旧約聖書の礼拝者たちはみな、創世記から新約に至るまで、  
神と交わりするときには、必ず焼き尽くすいけにえを献げました。

まず子羊を屠る——それが「血によって近づく」という意味だったのです。

ヨブもまた、神に近づいたときに、

子羊を屠り、血を流し、

その血の中で、自分の罪を悔い改め、告白したのです。

彼はこう言ったでしょう:

「どうか神よ、今、私をあわれんでください。

私は、血によってあなたに近づきます。」

これは聖書の最も古い書であり、創世記が書かれる何百年も前のもので  
す。

創世記を書いたモーセよりも前の時代——

でも、そこにすでにエデンの園からの流れがあり、

ヨブはその流れの中で、血を流すいけにえによって

神に近づいていたのです。

40 どうして今日、人々の祈りが本来のように応えられていないのか——  
わかりますか?

それは、血によってではなく、“心理的な高揚”の中で  
来てしまっているからです。

その通りです。

血によって来なければならないのです。

死にゆく子羊よ、あなたの尊き血は

決してその力を失わない

贖われた神の教会すべてが

もはや罪を犯すことなく救われるその時まで

41 私たちが通らなければならない道——それは、「流された血」です。

ヨブはまさにその流された血をもって、主なる神(エホバ)

に近づいたのです。

ヨブは、それ以外には神に受け入れられる道がないことを知っていました。

もし、あなたが今日こう言って神に近づいたとしましょう。

「私は正直者です。借金も払い、政府をごまかすこともなく、

税金もしっかり納めています。

私は善良な隣人です。」

——神は、あなたの声を決してお聞きになりません。

あるいは、こう言ったとします:

「私は教会の忠実な会員です。十分の一を捧げ、大きな献金をし、

教会の柱となって働いています。」